

おいしー(OEC) 2005.03 ニュースレター No.5

NPO法人 おきなわ環境クラブ



2005 年も早いもので三ヶ月が過ぎようとしています。今年は寒波の影響で寒さが続きましたが、最近は陽射しにも春のぬくもりが感じられるようになりました。今年度も「自然と環境の保全是足元から!!」をテーマに今年度も精力的な活動を続けていきますので、どうぞ宜しくお願いします!

平成 17 年度の活動予定

当クラブ(OEC)事業(活動)は次の三つに分けられる。特に平成 17 年度は、自主事業の拡大をめざしている。

自主事業

この事業は、NPO 自立に不可欠な財源確保のため、今年度特に力を入れる計画である。

エコツアー事業は、旅行社と提携して『自然体験学習』やモノレールで行く『街中のエコツアー』を実施予定。自主企画として那覇市内を中心にショートプログラムを展開する予定。

教育プログラム事業は、学校や地域に向けて積極的に展開を図る計画。

教材開発事業は、とのリンクと同時に、ガイドブックやイラストマップなど、個別事業としても展開予定。

環境教育事業は、講習会やセミナー、ワークショップなどの開催、講師派遣などを予定。

委託事業

人材育成や施設管理など、新しい事業の創出と自主事業の拡大に結びつく業務を JICA や県、市町村から委託を受けている。

第 2 回 JICA 集団コース『熱帯・亜熱帯地域のエコツーリズム人材育成研修』H17, 4/11 ~ 6/18。

第 3 回 JICA 『留学生セミナー』H18, 3 月に 1 週間。

3 年目の『県地域環境センター』管理：センター員の配置。
『宮古エコツアーガイド育成事業』：宮古島地下水水質保全協議会より受託。

JICA 研修員福利厚生事業：研修員の社会見学やエコツアーなど。

教材作成やHP開設・更新業務の受託。

生活排水対策移動啓発事業の受託。

『那覇市エコツアー資源調査事業』の成果報告



助成金事業

3 題の助成金事業に応募したが 2 題が残念ながら不採択になり、残る 1 題について採否の連絡を待っている。

河川管理環境財団の国民啓発運動、継続的助成活動として『沖縄の水辺自然と環境の保全・回復活動』を、H14 ~ H18 の 5 年間実施している。

地球環境基金助成事業は、『琉球列島における水辺植生とその希少種の保護回復事業』と題して昨年度からの継続事業。希少種苗木の移植・植樹と同時に、保護回復の実践マニュアルも作成する計画。

3/30(水)那覇市長定例記者会見が行われた。その席では昨年 4 月から 12 月の間、市から当クラブへ委託した事業の成果報告がされた。翁長市長は「エコツアーと言えば、やんばるや八重山のような大自然が広がる地域をイメージしがちですが、本市には琉球王国以来積み重ねてきた歴史文化が息づいており、また村ガーなど、生活と自然が結びついたポイントなどがあります。今回、3 千件もの資源があったということであり、先人たちが築きあげてきた那覇に、あらためて誇りを持ちたいと思います。」と語った。今回の成果を基にしたエコツアーの創生による市内観光の展開と、ガイドなどの雇用の拡大にも期待を寄せた。また同席では、当成果であるモノレールを活用した『なはの街ゆいレールエコマップ』の作成・出版と『街中のエコツアー』の実践例が紹介された。

平成 16 年度活動歴

活動名	内容	年月日	場所	人数	備考
総合学習プログラム	学校と地域における総合学習等教育プログラム	04-03-13 05-02-21	県内外小中学校	563	北谷町
市民ベンチャー事業成果発表会	『宮古島におけるエコツアーとエコ体験市場の創生事業』の成果発表	05-03-04	品川プリンスホテル	300	経済産業省
JICA 留学生セミナー	『島嶼地域の観光開発と環境保全』 世界各国の留学生が沖縄の観光や亜熱帯特有の自然環境を学ぶセミナー	05-03-03 05-03-08	JICA 沖縄国際センター (OIC)	24	JICA 沖縄委託
安謝川ウォッチング	末吉公園内を流れる安謝川流域 の水生物調査	05-03-19	末吉公園内	16	
識名園と湧水	識名園の歴史を学びながら園内の湧水ポイントにて天然記念物“シマチスジノリ”を始めとする水生生物の観察	05-03-26	識名園	39	

JICA 留学生セミナー・市民ベンチャー事業発表会

『市民ベンチャー事業発表会』

3月4日(金)東京・品川プリンスホテルにおいて、経済産業省が支援する「市民活動活性化モデル事業(市民ベンチャー事業)」の成果発表会が開催された。

当クラブ(OEC)は16年度8月から11月の4ヶ月間で「健康・水・エネルギー」をコンセプトとする『宮古島におけるエコツアーとエコ体験市場の創生』の基本計画策定事業を実施した。

発表会では宮古島で今年から3年かけて、島の環境保全や観光振興など社会的課題を解決しながら、自然・文化・歴史・産物など島の資源を生かした継続可能なコミュニティビジネスとしてエコツアーを創生する計画を発表した。



『JICA 留学生セミナー』

日本各地で学んでいる留学生24人が集まり、沖縄の観光や亜熱帯特有の自然環境を学ぶ平成16年度セミナー『島嶼地域の観光開発と環境保全』が平成17年3月3日～8日(火)の6日間JICA 沖縄国際センター(OIC)で実施された。OECにとっては昨年に引き続き二度目。大学院で様々な研究分野を専攻している意欲的な留学生たちが、6日間にわたる講義と視察のタイトなスケジュールを精力的にこなした。

この時期はムーチー・ピーサも過ぎて暖くなるはずなのだが、寒波の中の研修となった。特に5日、6日は寒い風の中、沖縄の伝統的な史跡や観光施設を視察し、沖縄エコツアーガイドから歴史や文化の説明を受けた。

3月7日(月)は、県庁に宜名真盛男観光リゾート局長を表敬訪問した。その後、観光企画課・自然保護課による「県の観光振興策と自然保護への取り組み」の講義が行われ、留学生からは「観光と基地との関係性」など様々な質問があった。短い6日間だったが、留学生にとって意義のあるセミナーとなった。



マブシキあれこれ(1)

おきなわ環境クラブでは、地球環境基金の助成を得て、水辺植生と希少種の保護回復(特にマングローブ)を実践している。この活動は現地における拠点の整備とその維持管理体制を確立して、今後の活動継続に必要なマニュアル作成などをおこない、沖縄の自然保護に寄与することが目的。



長い歴史の中で、活発な地殻変動で形成された琉球列島では、各島々に生息する動物(人間も?)や植物が、外部からの影響を受けずに独自の変化をとげてきた。同じ植物でも各島々によって、遺伝子レベルでの違いがある、と研究で分かっており、生き物たちの多様性を支える一つの要因ともなっている。いろんな種類がたくさんいるから健全な生態系が保たれる。人間も、たくさんのいろんな考え方や行動をする人がいるから健全な社会が保たれるのではないだろうか。マングローブの希少種の保護回復活動を通して、そんなことも考えていけたらいいな、と思う。

マブシキ(学名: *Sonneratia Alba*)は、沖縄で見られるマングローブ7種類のうちの一種。東南アジアや南太平洋に広く分布し、日本では、石垣島を北限とし、西表島、小浜島に分布が確認されている。沖縄県版レッドデータブックでは、希急種として位置づけられている。

マングローブの勉強し始めて間もない私は、沖縄本島での視察や調査を通して、マングローブの主要構成種である、オヒルギ、メヒルギ、ヤエヤマヒルギ、ヒルギモドキ、ヒルギダマシ(州崎マングローブテラスへの移入種)の5種類を観察していた。しかし、八重山地方にしか生育していないマブシキとニッパヤシは、まだ見たことが無く、この目で確かめたいと、常々思っていたところである。昨年、この保護回復活動に参加する機会を得て、実際に現場で見えてきたことや、現在、おこなっていることをつたない私の目線で紹介してみる。(続く)

OEC 事務局 研究員 吉田透

『語句解説』

沖縄版レッドデータブック

沖縄の野生生物相の現状を把握し、代々引き継いできた野生生物及びその生育・生息地を次世代に引き継ぐための保護対策を講ずる基礎資料

希急種

いまずぐ絶滅するというわけではないが、このまま放置すれば確実に絶滅の方向に向かうと考えられる生物をいう



沖縄エコツアーガイド Voice



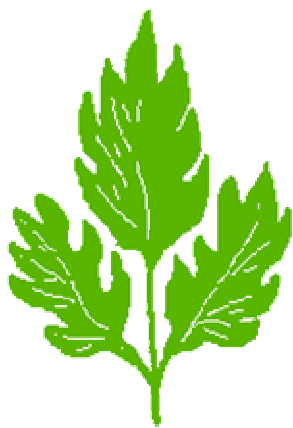
2月中旬、鹿児島県奄美パーク主催による、ガイド育成や地域資源の活用など奄美におけるエコツアーの将来を探る公開講座が催され、初日、私は講座の一環として行われた「水辺の観察会（水生生物調査）」の講師を務めました。

二日目の午前は「沖縄のエコツアーからみた奄美の可能性」と題して、吉田透さんを講師とする講座が開かれ、午後はボランティアガイド（奄美パーク応援隊）との意見交換会がもたれました。両日とも参加者が多く、エコツアーに対する関心の高さが伺えました。観察会は小雨の中、約30名の子供とその父母約20名が参加し、沖縄県の指標生物を基に水質の調査を、またパックテスト（COD）による水質判定も行いました。子供たちは小エビなどを採取して大喜びでしたが、大人は、生物で水質が判定できる（川遊びしながら水質が判る）ことに興味を示し、パックテストでは醤油1ミリリットルを2リットルの水に加えたCOD値の高さに驚いていました。奄美は私の故郷、多くのエコツアーガイドの活躍により、現在も残る豊かな自然を守り育てていただきたいと願っております。

（沖縄エコツアーガイド・保村亨）

沖縄の野草

沖縄はサンサンと降り注ぐ亜熱帯の太陽の下に150種くらいの薬用植物が存在するまさに“薬草の宝庫”。今回は沖縄薬草の代名詞ともいえる“フーチバー”を紹介しよう。



方言名 フーチバー

和名 ニシヨモギ

効用 解熱、神経痛、リュウマチ、吐血、嘔吐、浄血、子宮出血

特徴 沖縄で「万病の薬」といわれてきた野菜。

香りが高くほろ苦いのが特徴。繊維が多く、カルシウム、鉄、カリウム等を豊富に含んでいる。本土では、よもぎ餅や草だんごの材料として一般的だが、沖縄では山羊料理などのクセのある料理の薬味（くさみ消し）や、沖縄そば、雑炊（ジューシー）に欠かせない野菜として大活躍の薬草。

NPO 法人 おきなわ環境クラブ（OEC）

〒902-0075 那覇市国場370番地107号室

TEL:098-833-9493 FAX:098-833-9473

E-mail: oecc@mc3.seikyuu.ne.jp

URL: <http://www.npo-oecc.com>

*** コープ国場の裏です。遊びに来て下さい。 ***

OEC 宮古支局

〒906-0301 下地町字川満102B

TEL・FAX 0980-76-2696

E-mail: oecc-m1@miyako-ma.jp